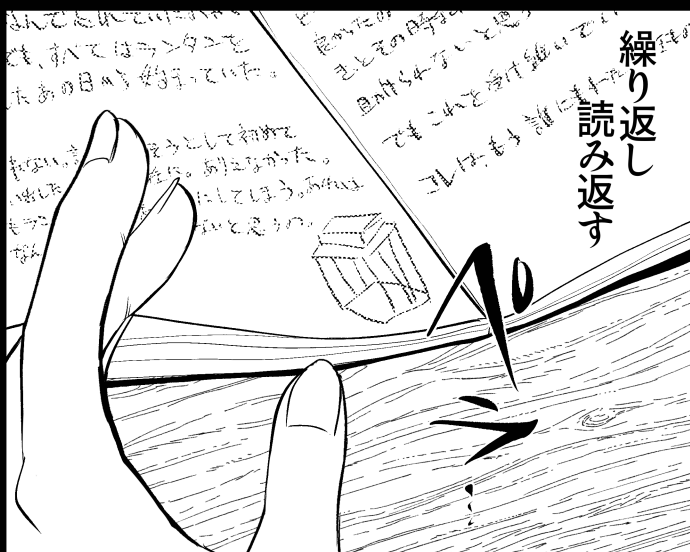


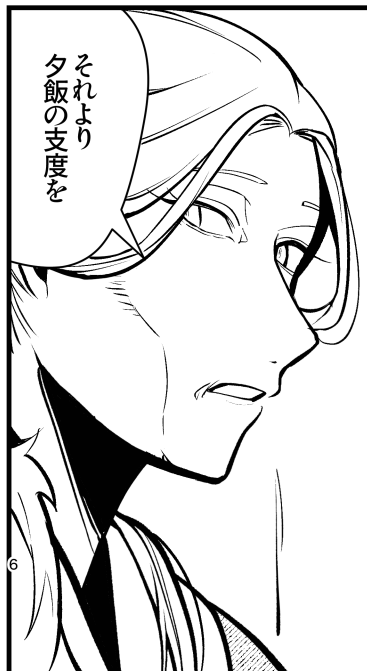


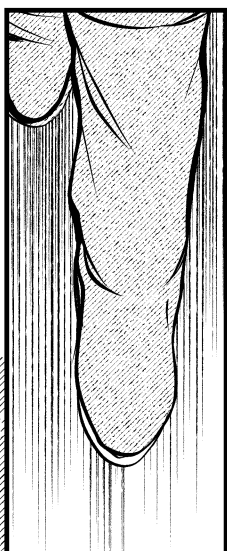
山奥に佇む
ひっそりとした集落



これは私の家族が
『3人』だったときの話

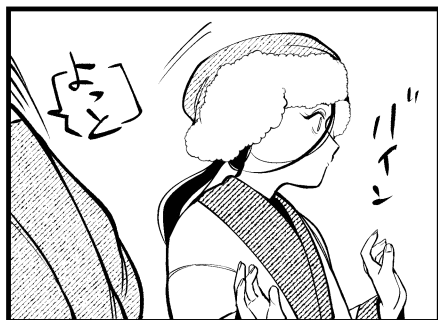












俺も森で
迷ったことがある

何か大切なものを
探していでな

帰れないと
泣いていたら

誰かが俺を
見つけてくれた

大丈夫だよ！

大丈夫か

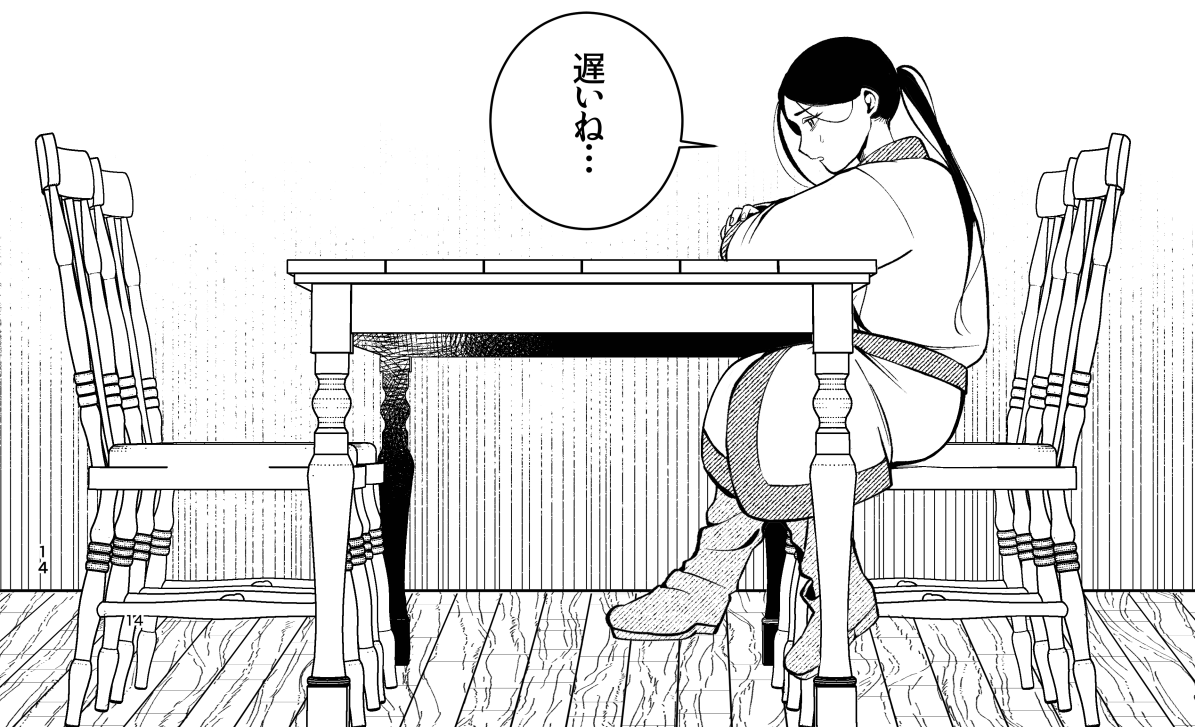
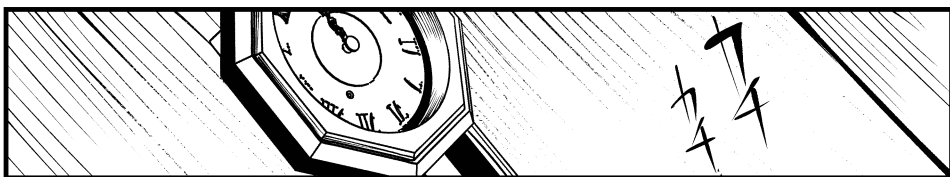
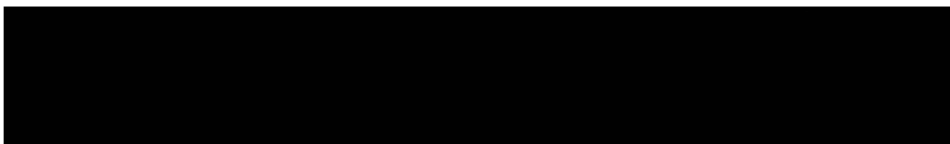
お父さんを
見つけたから

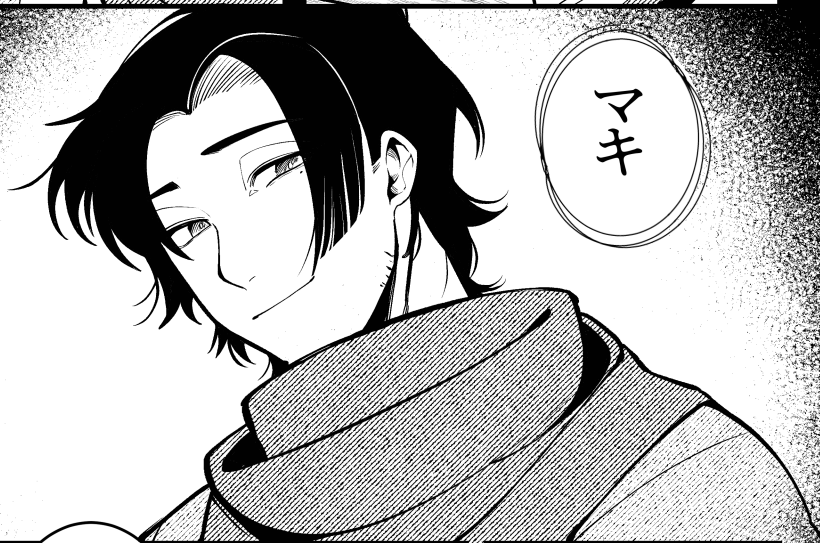
それならこいつを
持っていけ

この光が
夜道を照らして

怖い気持ちも
無くしてくれるさ







わたし

行かなきゃ



かあさん
ごめんね



ごめんね



家では一緒に
遊んでくれる

いつもおぶつて
もらっていた

それから

それから

二人でかけっこ
したりして

あれ…
霞んでまよとまらない
二人でなにをしたっけ

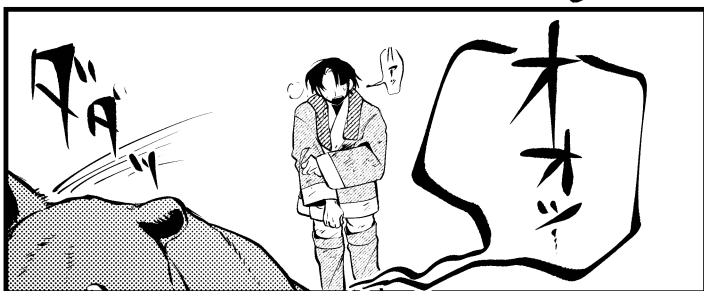
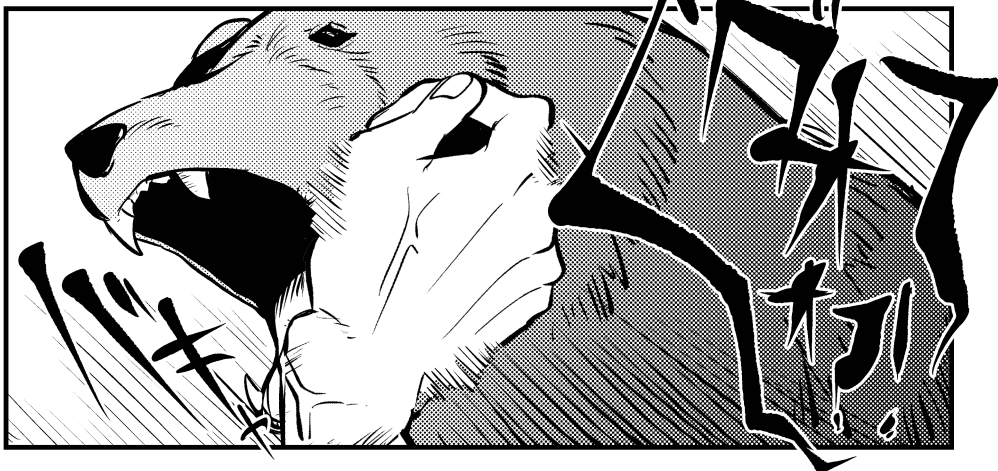
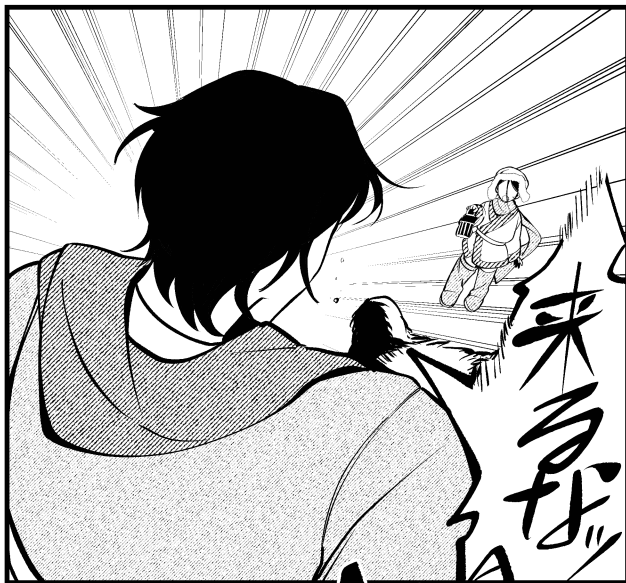
小さい頃だから
思い出せないのかな

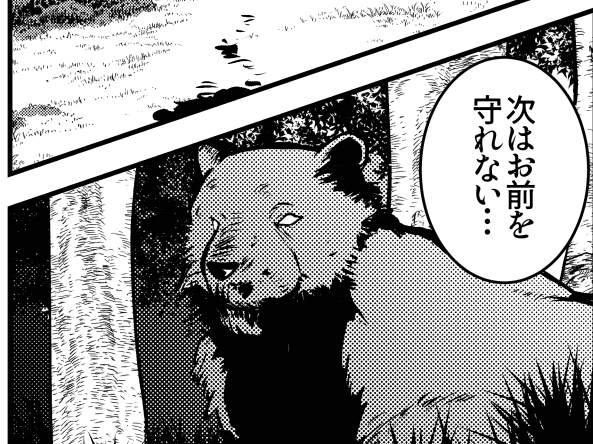


クソッ！
離れろ！

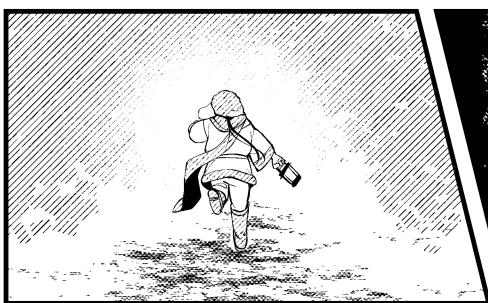








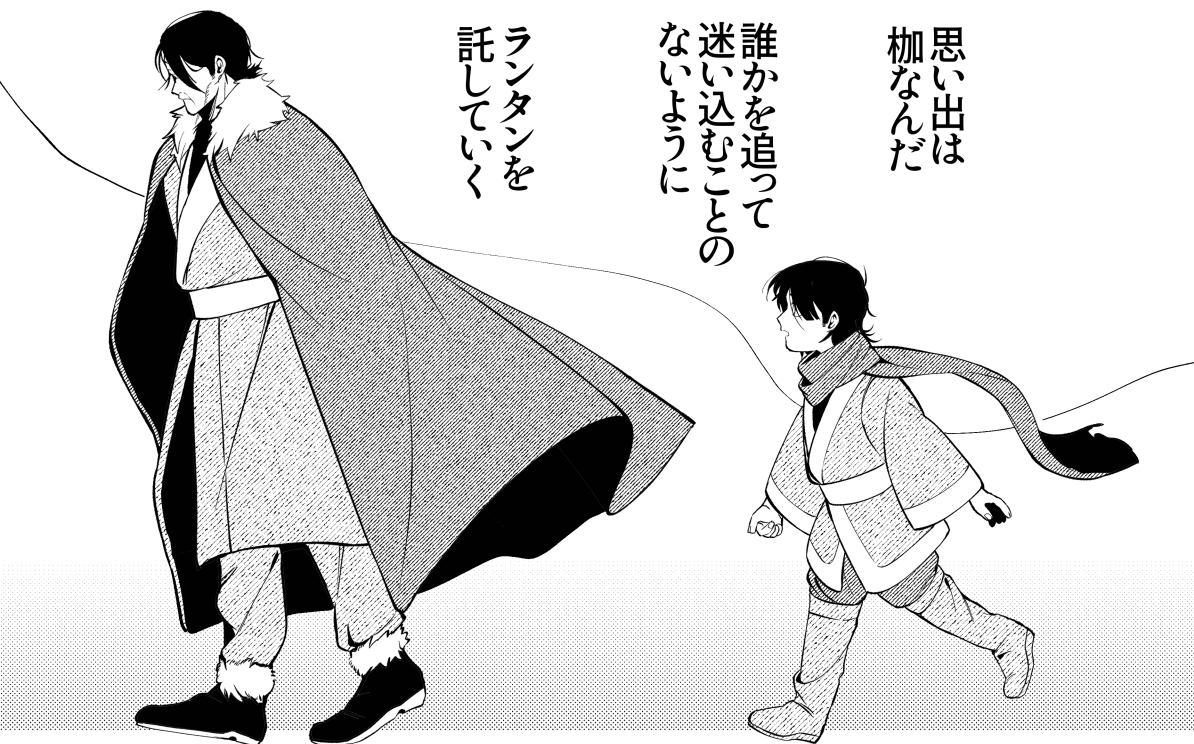




思い出は
枷なんだ

誰かを追って
迷い込むことの
ないように

ランタンを
託していく



それが親父の
優しさだった

今度は

俺なりの優しさに
なれたか？



アレを
手放したせいか
思い出に浸って
しまうな

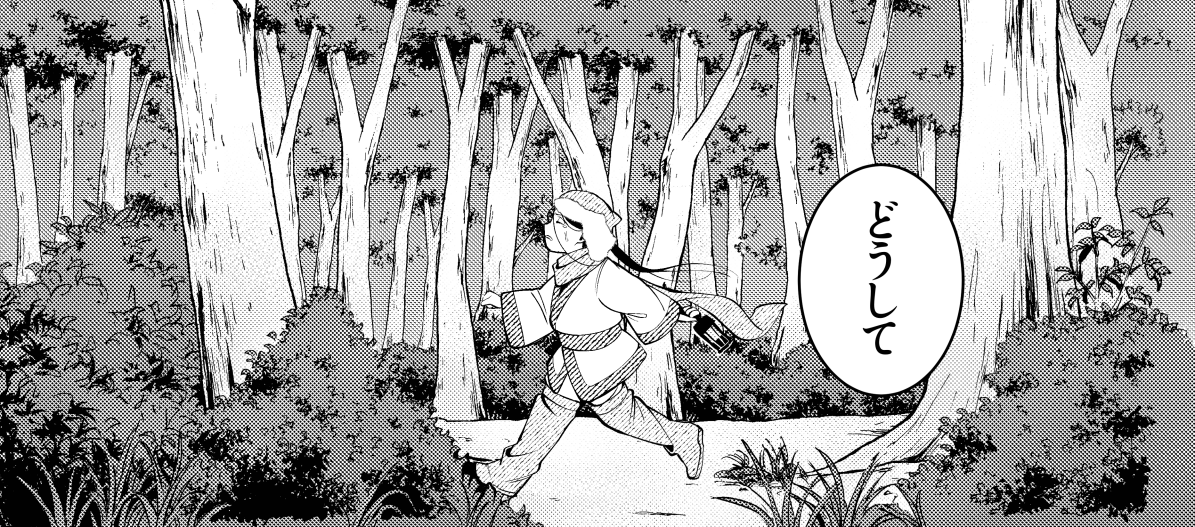
アレを手放して…
ようやく気づいた
能力に…

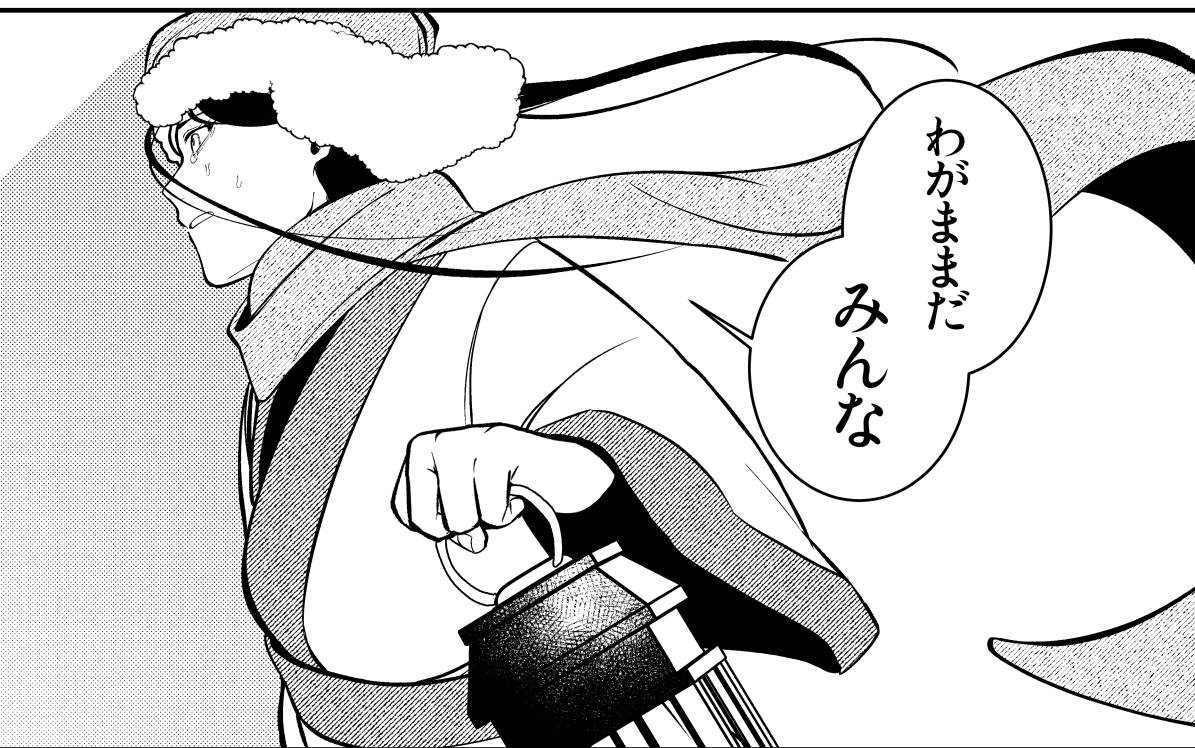
心の傷には
ならないと…
嬉しかったのに…

こんな…
酷い…

ごめん…

ごめんな…





わがまままだ
みんな



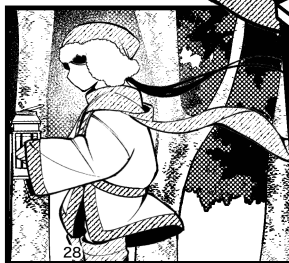
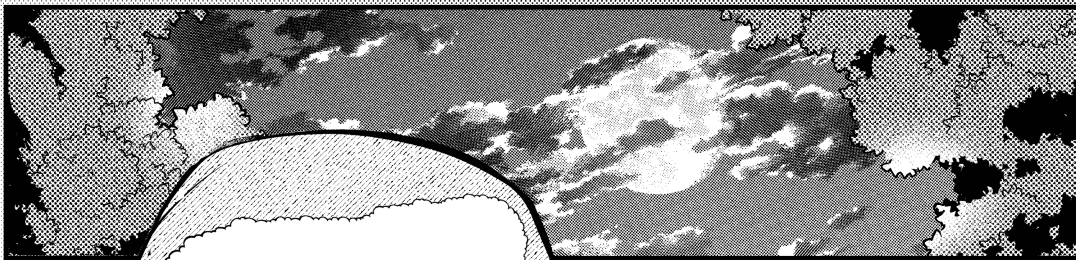
明るい炎を
託していい!!



あらゆる手で
火を点けようとして



とつくに溶けてゐる
小さなロウソク

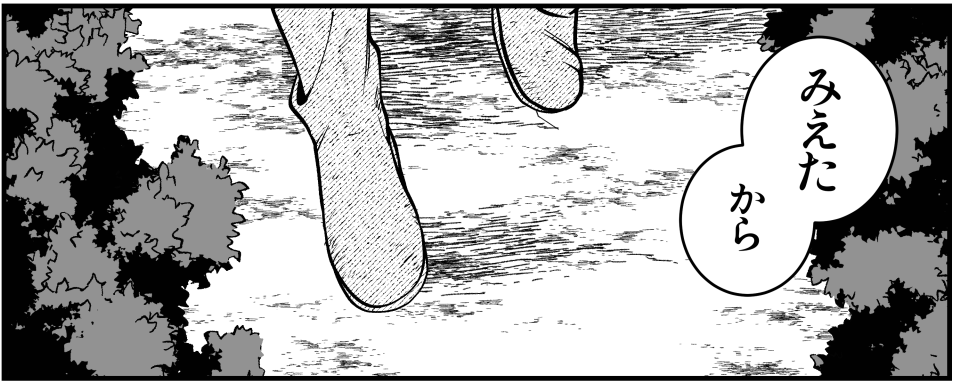


暖かい光が
記憶を包んで
おもいで

でも帰らなきゃ
いけないんだ

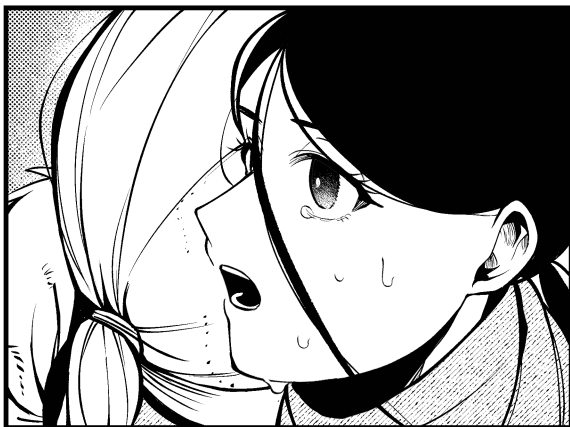
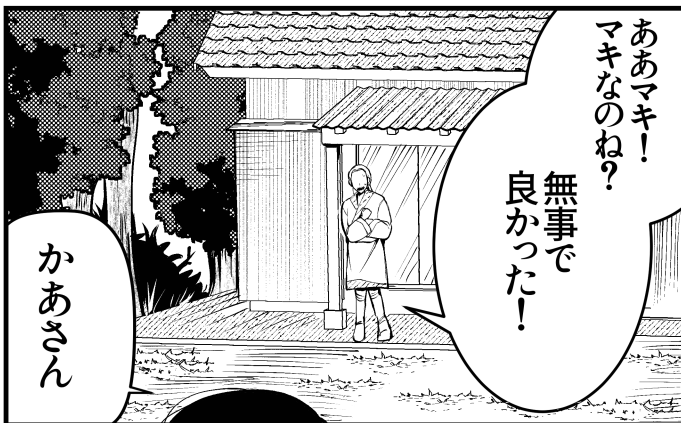
山を降りても
悲しくならない
ようにって

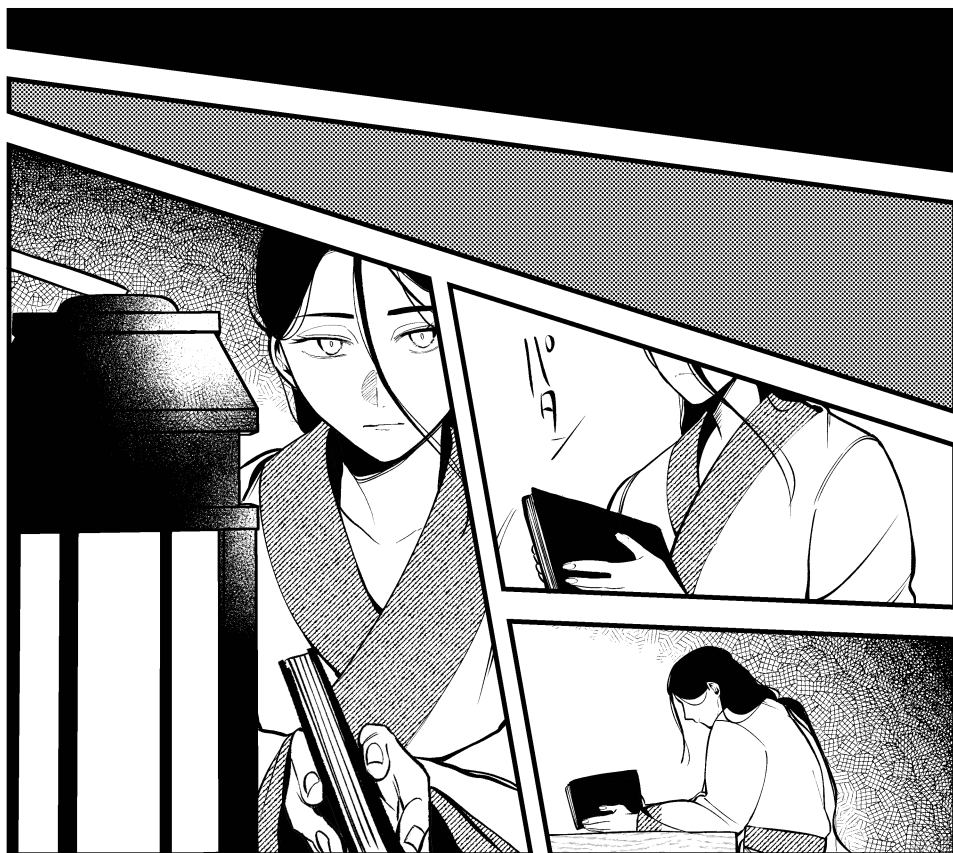
私の記憶が
消えてゆく…



誰を探して
いたんだっけ…









このランタンは
「後追いで死ぬことが
ないように」と



…この村では
しばしば人が
いなくなる

獣や遭難など
事情は様々…



たくさんの帰らなかった誰かが願ったのかな



でも私は
まだランタンを
持っている



私たちは足跡から
学んでいくのに？

足跡を辿って
生きて往くのにね

その時誰かを
悲しませないように



おわり